

県女第一期生より、皆実高校生に至る

114年の歴史に連なる者、

また今後、この同じ流れに連なる者、

手をつなぎ足音高く歩もう。

足音高く声を揃えて元気に歩もう。

我等は、皆実有朋会会員（36,533人）である。

歩もう、歩もう力強く！



No. 78 2015 (平成 27) .12.15



被爆70年 新たななる追悼の継承

整備内容

- ①既存樹木の移植・復旧（アベリア、ツツジ他）
- ②金柵及び千羽鶴掛けの撤去
- ③犠牲者銘板の移設
- ④門柱の移設（被爆した第一県女正門4本柱の内の1本）
- ⑤千羽鶴掛けの設置（新規）
- ⑥追憶之碑解説板（新規）
- ⑦御影石平板の敷設（新規）バリアフリー化
- ⑧汚れが付かない、光触媒コーティング（③、⑤、⑥）
- ⑨整備費1式 3,908,004円（税込）みずえ緑地株式会社
（内訳 皆実有朋会 2,908,004円 広島市の補助金 1,000,000円）



整備前の碑

広島市中区小町 平和大通りの緑地帯に建立されている「追憶之碑」今年是被爆70年、8月6日遺族会員をはじめ同窓会、在校生計300余名出席のもと追悼式が挙行された。

この碑は被爆後10年目の昭和30年（1955年）に原爆の犠牲となった、生徒・教職員301名の慰霊のため設置されたが、60年の歳月が流れて老朽化が進んだので被爆70年を機に改修整備した。

新しく日本語と英語の説明板（ステンレス製 横90センチ縦60センチ）と千羽鶴掛けを設置した。

説明板の英訳は有朋44期の星野美賀子さん（横浜在住）に依頼した。

千羽鶴掛けは皆実16期の大橋啓一さんが、県女の校章を形どったハート型をモチーフにデザインされている。

施工は皆実35期の正本大さん（みずえ緑地株）が中心となって完成した。

除幕式を7月18日に挙行了した。

戦争の記憶や原爆の悲劇が年々薄れゆく今日、その残酷さなど忘れることなく、多くの犠牲者の冥福を祈って、歴史を伝える証として後世に継承されることを願っている。